

授業科目	保育実習 I					実務家教員担当科目	-				
単位	4.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	通年				
担当教員	金谷 めぐみ										
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育としての実務経験を踏まえ、保育実習指導 1 における、実習前指導、実習中指導、実習後指導と一体的に構成される実習について、指導・教授を行う。</li> <li>・ 児童福祉施設で提供されている保育、療育およびその機能を現場での実践体験を通して理解する。</li> <li>・ 実習期間中は、教員の巡回訪問では個別指導を行うと共に、実習先の指導者との連携・強化を図る。</li> <li>・ 実習後学習として、教員による実習後のスーパービジョン及び実習での学びを共有するための報告会を行う。</li> </ul>										
授業形態	現場実習					授業方法					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する</li> <li>2 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について理解している</li> <li>3 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務・役割について実践的に学ぶ</li> <li>4 知識・技能と、実践を体系的に結びつけて理解している</li> <li>5 保育所以外の児童福祉施設の役割、機能等について実践現場での保育士の職務役割について実践的に学ぶ</li> </ol>										
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践するために、保育計画を立案することができる</li> <li>2 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について自分の言葉で説明できる</li> <li>3 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について知り、積極的に身につけようとする</li> <li>4 知識・技能と、実践を体系的に結びつけようとする姿がみられる</li> <li>5 保育所以外の児童福祉施設の役割、機能等について実践現場での体験を通して理解した内容を自分の言葉で説明できる</li> </ol>										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合 (数値)				備考				
試験											
小テスト											
レポート											
発表 (口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物			50%								
その他			50%								
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21628J

学習課題（予習・復習）	1回の学習目安 （時間）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習を行い、実習で必要となる知識と技術について確認しておく</li> <li>・実習日誌へ毎日の実習内容を記入し、指導者から指導を受ける</li> </ul>	4
授業計画	
第1回	<p>実習指導1までの学習に加え、10日間の実習を通して以下の内容を総合的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設について理解する。</li> <li>・保育の一日の流れを理解し、参加する。</li> <li>・養護の一日の流れを理解し、参加する。</li> <li>・子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。</li> <li>・保育計画・指導計画を理解する。・援助計画を理解する。</li> <li>・生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。</li> <li>・生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。</li> <li>・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。</li> <li>・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。</li> <li>・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。</li> <li>・保育士としての倫理を具体的に学ぶ。</li> <li>・安全及び疾病予防への配慮について理解する。</li> </ul> <p>*実習後は、報告会、実習報告書の作成を通して、実習経験を知識として再認識する。</p> <p>*実習の準備状況（事前学習・健康状態など）によっては、実習を履修できない場合がある。また、実習開始後も実習生として不適切な行動があった場合は、実習をとりやめにする。</p>
テキスト	保育実習マニュアル 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科子ども家庭福祉コース
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針解説書 厚生労働省</li> <li>・全国保育士会倫理綱領 全国保育士会</li> <li>・保育士のための福祉施設実習ハンドブック 小野澤昇・田中利則 編著 ミネルヴァ書房</li> </ul>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポート外の提出物（実習日誌の記述）にコメントをつけて返却する</p> <p>実習先からの評価を元に個人面談を行う</p>
学生へのメッセージ・コメント	実習で必要となる知識・技術を授業内容を踏まえて身につけておくこと